

## 研究プロジェクト

## 癒し空間の比較研究

鎌田東二（こころの未来研究センター教授）

## ■癒し空間の定義

「癒し空間」とは、「人びとが、癒しを求め、癒しの効果があると感得され、信じられている空間」である。伝統的には、「聖地」や「霊場」や「巡礼地」などの聖なる場所を指す。そこでは、さまざまな宗教的行為——祈り、祭り、籠り、参拝、神事、イニシエーションなどの儀礼や修行（瞑想・滝行・山岳跋涉等）が行われてきた。

## ■研究目的

本研究プロジェクトは、日本における政治・宗教・文化・観光の中心を成してきた平安京・京都に形成されてきた寺社や聖地などの「癒し空間」を、宗教学・資源学・生態学・民俗学・芸術学・衣食住文化研究・認知科学・認知心理学・臨床心理学などの方法を用いながら総合的・多角的に研究し、世界各地の癒し空間との比較研究を試み、人に安らぎや崇高さを感じさせる場の特色とその心的メカニズムを突き止めることを目的とする。

癒し空間は、資源論・環境論・地域論・文明論の観点から見ても生態智を伝承してきた拠点としてきわめて興味深く、そこから抽出された特性は現代の心の平安を再検討していく際に多大のヒントを与えてくれる。人類文明の“安心”“安全”“安定”という「平安」の条件や機能を再検証し、再活用する可能性を示唆し、また京都府や京都市、他の地域との連携により、研究成果をシンポジウムやセミナーなどで社会発信していくことが期待できる。

## ■研究会と研究活動

2011年度は2回の研究会と2回の東日本大震災被災地の調査（2011年5月、10月）と近畿大水害に見舞われた天河大辨財天社の被害調査（2011年9月）を行った。

第1回研究会は2011年10月26日、須田郡司氏（写真家・京都大学地域研究統合情報センター共同研究員）「石の聖地の比較研究」、鎌田東二「水の聖地・天河大辨財天社の癒し空間と台風12号による被害状況報告」。第2回研究会は同年11月17日、小林達雄國學院大學名誉教授（縄文考古学）「縄文遺跡と延喜式内社～縄文中期最大の住居跡・岡田遺跡と寒川神社、勝坂遺跡と有鹿神社との関係について」、鎌田東二「癒し空間と延喜式内社の研究について」。

## ■癒し空間に伝承される生態智

「生態智」とは「自然に対する深く慎ましい畏怖・畏敬の念に基づく、暮らしの中での鋭敏な観察と経験によって練り上げられた、自然と人工との持続可能な創造的バランス維持システムの技法と知恵」である。その生態智の集積した都市が、平安京以来1200年以上続く京都であると考え、それを「平安京生態智」と呼んでいる。

「生態智」は、ヨーロッパ諸言語で言えば「エコソフィア ecosophia」ないし「エコロジカル・ウィズダム ecological wisdom」であるが、それをわが国でもっとも早く明確なメッセージ性を持って使用したのが南方熊楠である。彼は明治政府が推進した神社合祀令に対して「エコロジー」という言葉を使って反対運動を展開した。神社合祀が地域文化と生態系を空洞化し破壊することを予見し、神社合祀は敬神思想を弱め、民の和融を妨げ、地方を衰微させ、国民の慰安を奪い、人情を薄くし、風俗を害し、愛国心を損ない、土地の治安と利益に大害をもたらす、史蹟と古伝を滅却し、天然風景と天然記念物を亡滅する、百害あって一利なしの亡国の政策であると批判した。

一方、「生態智」を現代思想の根本問

題と洞察したのがフェリックス・ガタリの『三つのエコロジー』（平凡社、2008年）である。ガタリはこの書で、環境のエコロジー（生物間の相互関係性や生物と環境との相互関係性をバランスさせる知と実践）、社会のエコロジー（いびつな病理的関係や偏差をとまなう権力関係のゆがみや抑圧を取り除く解放の知と実践）、精神のエコロジー（イメージ操作を受ける現代人の主体的関係性の再創造であり想像力の動的編成）の3つを美的に総合する知を「エコソフィー（ecosophy）」と呼び、総合的なエコロジカル倫理学を提唱した。「エコソフィー」から見れば、環境も社会も精神もすべてつながりと循環の中でインターフェースしている。

## ■延喜式内社と寒川神社

「聖地」とは人々の祈りや祭りが奉じられる聖なる場所であり、人々の心に深い癒しや安らぎや救済をもたらす「癒し空間」でもある。そのような「聖地」や「癒し空間」のデータベースでわが国最古の「聖地」特集ともいえる文献が『延喜式』神名帳で、そこに記された相模国の古社13社の中でとりわけ格式の高い神社が寒川神社である。その寒川神社を中心に、鎌田東二編『日本の聖地文化—寒川神社と相模国の古社』（創元社、2012年3月刊）を上梓した。本書では、日本列島の生成、地質・地形、生態系、地理、縄文遺跡・弥生遺跡・古墳時代遺跡と相模国の形成、寒川神社と延喜式内社の分布と遺跡との関係、寒川神社と方位信仰など、日本列島1万年の時空間の中に「聖地」や寒川神社や相模国の延喜式内社を位置づけ、聖地が聖地である理由を「聖地環境学」や「神社生態学」というべき新視点から解明した。